

## 今週（11月25日から11月29日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、一部大手行や地銀業態からの調達ニーズが強く、堅調な地合いとなった。日銀当座預金残高は概ね404～405兆円程度で推移した。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に概ね▲0.040～▲0.020%程度の出合いとなった。週初25日は、先週に強含んだ地合いを引き継ぎ、▲0.035～▲0.025%程度での出合い。26日には一部証券業態の試し取りが実施されたことで、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.018%まで上昇した。27日以降は試し取り要因が剥落したものの、堅調な地合いは変わらず、高水準での出合いとなった。29日は▲0.040～▲0.025%程度の出合い。ビットサイドの資金調達ニーズが底堅く、月末要因によるレート低下は限定的であった。ターム物に関しては、ショートターム物を中心に▲0.025～▲0.015%近辺で引き合いが見られていた。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは、動意が薄く、週を通してほぼレートに動きが余り見られなかったものの、29日には投資家のオファーが入ったことで、レートは上昇した。週初25日は▲0.09～▲0.08%の出合い。翌26日はややレートを上げて▲0.08～▲0.07%の出合い。その後も同水準のレートで出合いを続けたものの、29日にはレートを大きく上げて▲0.08～▲0.05%程度の出合いとなった。

SCについてはビッドが目立った銘柄は10Y336～338、351～355、2Y402～406、5Y133、135～141、20Y169、30Y59～64にビッドが見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散な中、業者の在庫の積みあがりも見られ、3M物で▲0.210%程度の出合いと軟調な展開となった。29日の3M入札後は、入札結果でテールが流れたことから、一層弱含む展開となった。

26日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.055%、按分落札利回較差+0.055%と弱めの結果となった。

29日実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.200～▲0.175%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1783%、按分落札利回▲0.1507%と、テールが大きく流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.165～▲0.155%出合いと軟調に推移している。

### ●CP市場

今週のCP市場は、11月末の法人税、配当等の資金需要が強く、電機業態から1,500億円にものぼる大型の発行案件が見られたほか、不動産・食料品・鉄鋼業態等の幅広い業態からも大口の発行が見られた。特に27日には一日で1兆2,000億円程度の入札が実施されたこともあって、1兆6,300億円程度の週間償還総額に対し、2兆1,800億円程度の週間発行総額に膨らんだ。市場残高は週を通じて21兆円前後となっており、増加ペースは鈍化しているものの引き続き高水準で推移している。発行レートについては、年越えの一部希少銘柄では▲0.001%以下の水準で決着する場面も見られたが、高水準の市場残高等を背景にやや札が入りにくく、年内物を中心にレートが上昇する傾向が見られた。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/25 (月)	23,292.81	△ 0.090	108.78	△ 0.027	△ 0.075	4,043,300
11/26 (火)	23,373.32	△ 0.100	109.05	△ 0.018	△ 0.076	4,051,500
11/27 (水)	23,437.77	△ 0.115	109.11	△ 0.023	△ 0.076	4,044,100
11/28 (木)	23,409.14	△ 0.095	109.39	△ 0.024	△ 0.076	4,046,500
11/29 (金)	23,293.91	△ 0.085	109.47	△ 0.034	△ 0.064	4,046,600

## 来週（12月2日から12月6日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
12/2 (月)	7-9月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)		10月の米建設支出 11月のISM 製造業景況指数
12/3 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 11月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 12/4発行	
12/4 (水)	12月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 12/13借入	11月のISM 非製造業景況指数
12/5 (木)	大分県金融経済懇談会において原田審議委員講演	30Y 7,000億円 12/6発行	10月の米貿易収支 10月の米製造業新規受注・出荷・在庫 7-9月期のユーロ圏GDP確報値
12/6 (金)	10月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 11月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 10月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 43,200億円 12/9発行	10月の米卸売売上高 10月の米消費者信用残高 11月の米雇用統計 12月のミシガン大消費者信頼感指数速報

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/2 (月)	0	▲ 30,100	▲ 30,100	CP買入 国債補充	▲ 100 500		400	▲ 29,700	TB3M発行▲42800償還42700 2Y発行▲21000
12/3 (火)	▲ 1,000	▲ 14,000	▲ 15,000				0	▲ 15,000	
12/4 (水)	▲ 1,000	▲ 81,000	▲ 82,000				0	▲ 82,000	税揚げ 年金保険料揚げ 10Y発行▲21000 交付税借入▲10500期日10500
12/5 (木)	▲ 2,000	3,000	1,000				0	1,000	
12/6 (金)	▲ 2,000	▲ 4,000	▲ 6,000	CP買入		3,000	3,000	▲ 3,000	30Y発行▲7000
週間合計	▲ 6,000	▲ 126,100	▲ 132,100	—	400	3,000	3,400	▲ 128,700	

12/2は日銀予想、12/3以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、レート上昇に一服感がみられているものの、積み期間後半に入り、4日に税揚げを控えていることから、引き続きビッドサイドの動向が注目される。レポ市場は、週末のレート上昇が継続することが予想され、ボラティリティで上昇しやすい動きになることが予想される。短国市場は、6日に3M物の入札が実施予定となっている。レート水準の上昇傾向が続くのかなど、市場動向が注目される。CP市場は、3日にCP等買入オペが予定されているほか、12月に入って賞与払い等の年末資金需要が予想されるため、事業法人の発行がどの程度膨らむのかが注目される。

主要なイベントとしては、6日に11月の米雇用統計などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。